

2020年10月

日本学術会議 若手アカデミーのご紹介



第24期日本学術会議若手アカデミー

<http://www.scj.go.jp/ja/scj/wakate/index.html>

日本学術会議若手アカデミー*の活動

- 学術の既存の枠にとらわれることなく、次の時代に対して責任を取るべき世代として自覚を持った活動を展開。
- 若い力を活かした機動力のある「学者のネットワーク」を作り、学術の発展に関わる課題だけでなく、社会課題などにも向き合い、明るい未来の実現を目指す。

若手アカデミーでできる活動（若手アカデミー運営要項より）

- (1) 若手科学者の視点を活かした提言
- (2) 若手科学者ネットワークの運営
- (3) 若手科学者の意見収集と問題提起
- (4) 若手科学者の国際交流
- (5) 産業界、行政、NPO との連携
- (6) 科学教育の推進
- (7) その他目的の達成に必要な事業

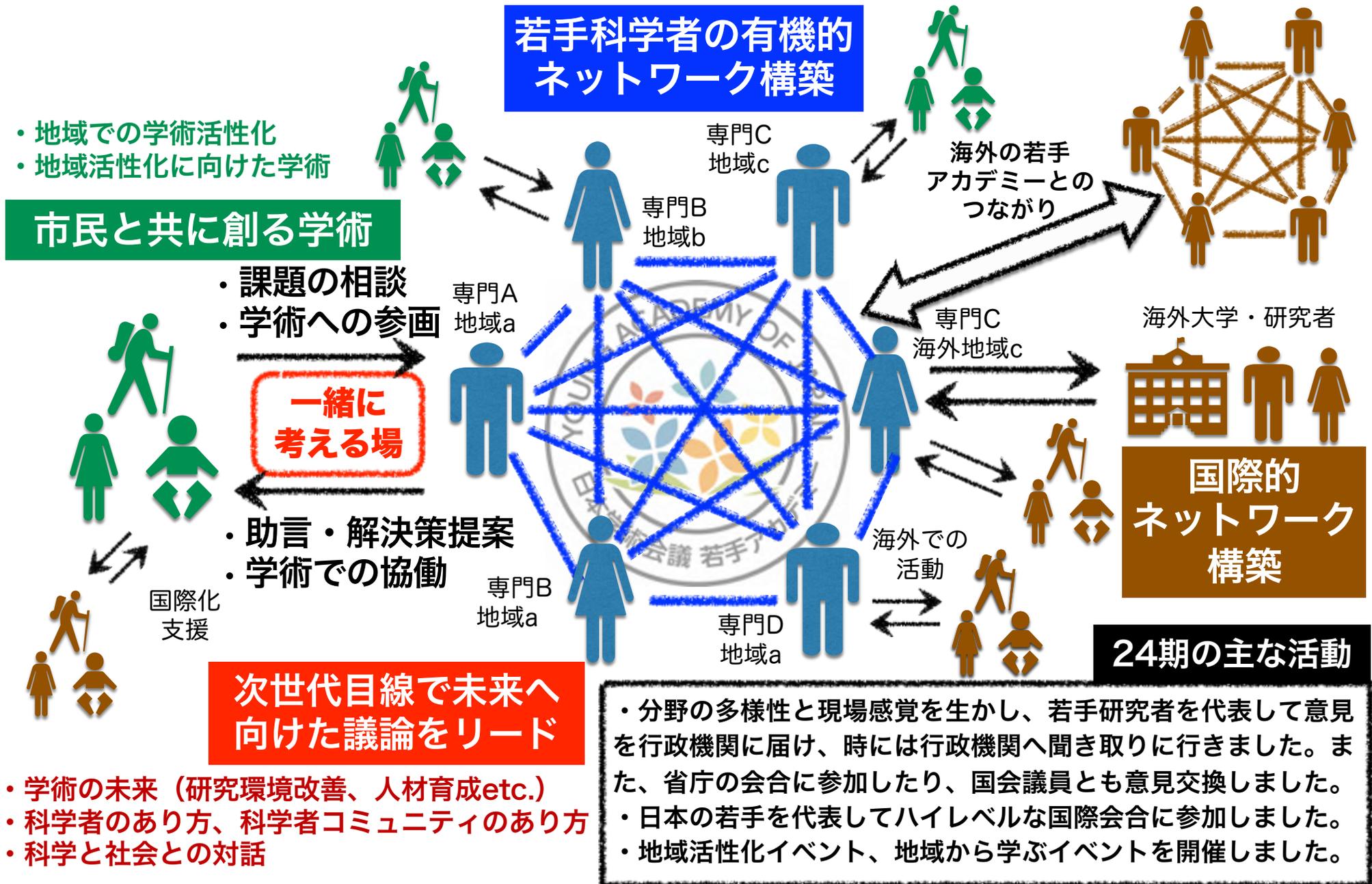
- 基本的に分野で縦割りの構造は取らず課題別にグループを設定

24期に設置された分科会

- ①若手による学術の未来検討分科会 ②若手科学者ネットワーク分科会
③イノベーションに向けた社会連携分科会 ④国際分科会

*若手アカデミー設立の経緯はこちらから

若手を中心とする科学者集団が つながり、考え、解決に導く



24期における政府・行政との関わり（抜粋）

内容	成果など
文科省との関わり	日本の研究力向上、若手の研究環境改善、人材育成、人社連携などについて意見交換を行いました。また、大学の国際化、キャリア教育（職業科学者育成）に関してメンバーが訪問して聞き取りを行いました。文科省の若手職員研修に参加しました。
文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会への参加	岸村代表、新福副代表が臨時委員に就任し、審議に参加。若手を代表し、 コロナ後の学術振興に向けての提言 作成に関わりました。
総合科学技術イノベーション会議（CSTI）との関わり	ムーンショットに関わる意見交換を行いました。また、山極前会長を通じ、後の「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」につながる政策に向けて若手の声を届けました。基本計画調査会に参加し、研究開発DX、オープンサイエンスについて有識者として意見を述べました。
外務省との関わり	外務省・科学技術外交推進会議へ参加、若手アカデミーと意見交換会も実施し、日本の科学技術外交の中枢に接近しました。
経産省との関わり	CITES機関関連のヒアリングを行い、検討会へ参加しました。若手研究者支援策に関する意見交換を行いました。
国会議員との意見交換	竹本内閣府特命担当大臣（当時）と「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」についての意見交換を行いました。今井絵理子政務官（当時）と懇談を行いました。

24期における社会への発信～提言の発出

若手アカデミー独自の提言発出: 『シチズンサイエンスを推進する社会システムの構築を目指して』

シンポジウムの実施、日本学術会議が関わる月刊誌「学術の動向」への**特集記事の掲載**を経て、**地域での実例を学ぶワークショップ**や**地域の科学者・行政官と議論するワークショップ**、**国際会議（筑波会議2019）での議論**などを経て、提言をまとめました。



公開シンポジウム
地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化
—シチズンサイエンスを通じた
地方課題解決への取り組み—(青森県)

日時:平成30年12月1日(土)13:30~16:30
場所:健康未来イノベーションセンター
(弘前市本町 弘前大学本町キャンパス)
参加申し込み不要・参加費無料

市民が参画する新たな研究スタイル「シチズンサイエンス」を通じた、
地方課題の解決の可能性を探ります。

【基調講演】
「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」
林 和弘(文部科学省科学技術・学術政策研究上席研究官)

「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」
中村 征樹(日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、大阪大学全学教育推進機構准教授)

【話題提供】
地方が抱える課題を解決するシチズンサイエンスの可能性
—青森県での健康教育促進を通じた短命果返上への取り組み—

「地域課題解決を通じて新産業創出をめざす弘前大学COIの基本戦略」
村下公一(弘前大学COI研究推進機構教授、弘前大学COI副拠点長(戦略統括))

「市民と課題に向きあう、健康リーダー育成」
沢田かほり(弘前大学医学研究科助教)

「市民と共に創る—地域食材の良さを生かした食品開発—」
前多隼人(弘前大学農学生命科学部准教授)

総合司会:高瀬堅吉(日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、自治医科大学医学研究科)

シンポジウム終了後、同じ会場において、サイエンスカフェ「シチズンサイエンスを通じた
地方課題解決への取り組み」を開催します(16:30~18:00)。
ゲスト:高瀬堅吉 コーディネーター:中村征樹
お茶を飲みながら、お気軽にご参加ください!

主 催:日本学術会議若手アカデミー
共 催:弘前大学COI研究推進機構
後 援:国立研究開発法人科学技術振興機構
お問い合わせ:加藤千尋(弘前大学農学生命科学部助教、若手アカデミー会員)
TEL 0172-39-3748 (弘前大学農学生命科学部・代表)

地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化
シチズンサイエンスを通じた地方課題解決
～市民と科学者が“つながる場”について考える～

日時:3月2日(土) 第一部 13:00~17:00
第二部 17:30~19:00
場所:(第一部)電気ビル本館地下2階・7号会議室
(第二部)電気ビル共創館3階・BIZCOLI
*地下鉄七隈線・渡辺通り駅から徒歩
参加費:無料 定員:80名(事前参加申し込み推奨)

市民と向き合うことで地域課題の解決に取り組む行政や、地域で長らく科学コミュニ
ケーション活動に取り組む方々を交えて、市民を巻き込む新しい学術のあり方
について議論し、地域だからこそ生きてくる市民と学者の共創について考えます。

第一部(講演会&公開討論) (基調講演、話題提供後に討論を予定)

【基調講演】
「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」
林 和弘(文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席研究官)
「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」
中村征樹(日本学術会議連携会員、大阪大学全学教育推進機構 准教授)

【話題提供】
地方を舞台とするシチズンサイエンスの可能性—福岡での取り組みを中心として—
「Society5.0の実現に向けた福岡市の取り組み:実証実験フルサポート事業による先端技術を活用した社会課題の解決」福岡市総務企画局企画調整部Society5.0担当
「産学官民の共働・共創の場「福岡ヘルス・ラボ」～楽しみながら健康になれるまちづくり～」福岡市保健福祉局健康先進都市推進担当
「地域におけるサイエンスカフェ活動から見える市民巻き込み型学術の可能性」
吉岡瑞樹(九州大学大学院理学研究院 准教授、サイエンスカフェ@ふくおか 運営者)
「サイエンスPap in 福岡:市民と学者の“ガチだか気軽な対話”から生まれるもの」
山岡 均(国立天文台天文情報センター)

参加申し込みはこちらから
QRコード

福岡100

第二部(サイエンスカフェ) (定員40名:要・事前申し込み、別紙参照)

24期における社会への発信～その他の提言等の発出

その他の提言等発出

シニアの委員会・分科会と協働で進める仕事も増加（頼られるケースも増加）

社会と学術における男女共同参画の実現を目指してー2030年に向けた課題ー

(科学者委員会男女共同参画分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会)

「人口縮小社会」という未来ー持続可能な幸福社会をつくるー

(人口縮小社会における問題解決のための検討委員会)

科学的エビデンスを主体としたスポーツの在り方

(科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会)

第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2020）

(科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会)

第6期科学技術基本計画に向けての提言

(科学者委員会 学術体制分科会)

学協会に係る法人制度ー運用の見直し、改善等について

(科学者委員会学協会連携分科会)

学術とSDGsのネクストステップー社会とともに考えるためにー

(科学と社会委員会、同科学と社会企画分科会)

「軍事的安全保障研究に関する声明」への研究機関・学協会の対応と論点

(科学者委員会軍事的安全保障研究声明に関するフォローアップ分科会)

24期における社会への発信～出版物、論文、イベント

学術の動向（特集）：企画立案から行い、オピニオンを発信しました。

- [2018年10月号「若手科学者が取り組む国際的活動」](#)
- [2018年12月号「若手科学者サミット ―よい研究とは―」](#)
- [2019年11月号「若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会連携」](#)
- [2020年4月号「若手科学者が担う国際的なリーダーシップ」「若手科学者が考えるSDGsと科学的助言」](#)
- [2020年8月号「若手科学者が考える「地域社会」と「科学」の幸せな関係」](#)

社会科学者と自然科学者の連携による学術研究（論文出版）の成果を上げました。

- [「日本における学術研究団体（学会）の現状」](#)（埴淵・川口）E-journal GEO, 15, 137 (2020).

公開シンポジウム等開催：東京以外の地域でもイベントを開催し、議論を展開。

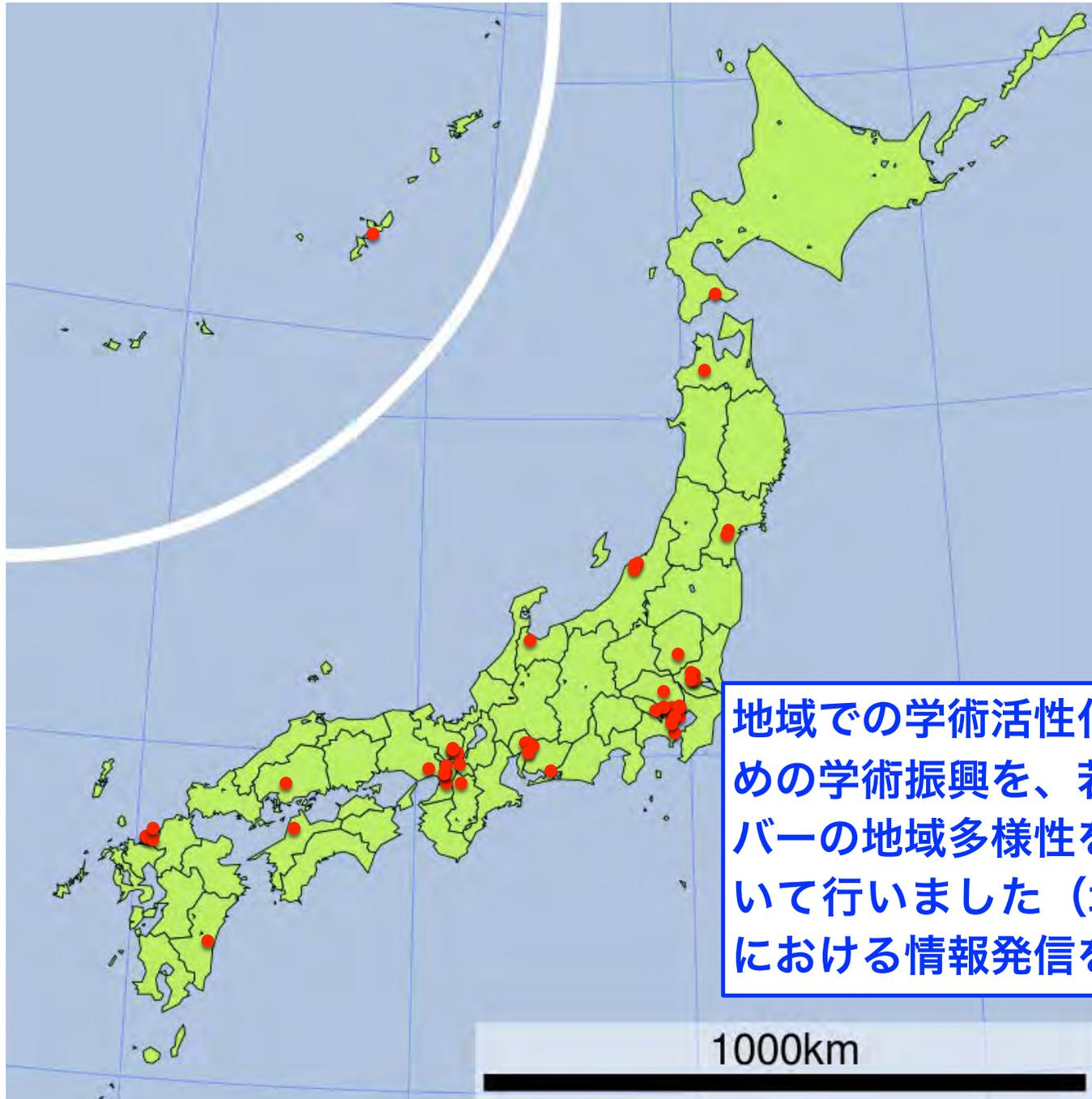
- 『博士キャリアの可能性 企業が博士に求めること』
- 『第3回若手科学者サミット』
- 『若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会連携』
- 『[若手研究者のための科学的助言能力構築ワークショップ](#)』
- 『[地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化―シチズンサイエンスを通じた地方課題解決への取り組み―（青森県）](#)』
- 『[SDGsで地方活性](#)』
- 『[大学の国際化による地方活性化促進：地方拠点としての大学の在り方を考える](#)』
- 『シチズンサイエンス・当事者研究が拓く次世代の科学：新しい世界線の開拓』

テレビ等での議論にも招かれました。

- NHK「日曜討論」に代表が出演し、若手研究者を代表して議論に参加。
（テーマは「吉野さん ノーベル賞受賞 どうするニッポンの科学技術」）

若手アカデミー・メンバーマップ

2020.3月時点



地域での学術活性化や地域活性化のための学術振興を、若手アカデミーメンバーの地域多様性を生かし各地域において行いました（地域から学び、地域における情報発信を実施。）

様々な若手科学者とのネットワーキング（若手科学者サミット）



様々な分野の学会の若手会によるポスター発表



講演会の部で特に好評だった講演には表彰をさせていただきました。



様々なステークホルダー、社会との関わり

別府での地域イベントでは、大学国際化を議論。
地域の大学のみならず、地域行政の方、地域ボランティアの方
に加え、文科省からも担当の方をお招きして議論しました。

今井絵理子内閣府大臣政務官（当時）との懇談



日本学術会議 in 京都

山極前会長肝いりの『地方学術会議』で、若手アカデミー主催で一般の方々を前に公開討論会を実施。山極前会長を聴衆に抱えつつ議論は白熱し、大変盛り上がりました。



24期における国際的会合参加・運営（抜粋）

国際的なハイレベル会合や、海外の若手アカデミーとつながる会議に参加しました。

名称	概要など
Gサイエンス学術会議	毎年のG7サミットの議題や地球規模で科学者が取り組むべき問題に関して、G7各国の学術会議が共同で政策提言（共同声明）を発出するために、G7開催国で各学術会議の代表が一堂に会して議論をする会議。成果物としての共同声明は、参加各国の首脳に提出される。2019年、2020年、若手アカデミーメンバーが日本の代表として派遣された。
S20	G20サミットに向け、G7各国の学術会議が共同で政策提言（共同声明）を発出するために、タスクフォースを組み、各学術会議の代表が一堂に会して議論をする会議。成果物としての共同声明は、参加各国の首脳に提出される。2020年タスクフォース4の共同代表に若手アカデミーメンバーが選ばれた。
STS Forum Annual Meeting	『科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム (Science and Technology in Society forum)』で、世界に共通する科学技術と社会に関する問題を扱い、科学者に加えて、政策決定者・政治家、経営者、ジャーナリストなどが参加して議論を行っている国際会議。毎年日本で行われ、若手アカデミーメンバーも参加。
World Science Forum	隔年で開催されている世界規模の科学フォーラム。世界各国から科学者、政策決定者、産業界のリーダー、市民代表、メディアなど様々な関係者が集い、科学と社会の関係のあり方や、社会課題における科学の役割などを議論。 2017 、 2019 は若手アカデミーメンバーが参加し、 2019では日本学術会議主催のサイドイベントの運営 に携わった。
Global Young Academy (GYA) 総会	世界各国の卓越した若手科学者200名から構成される若手アカデミー組織。日本人メンバーは現在4名（いずれも若手アカデミーメンバー）。ドイツに本部があるが、毎年、各国で総会を行っている。 2022年、我々若手アカデミーがホストとなり、日本において総会を行う予定。
筑波会議	若手のダボス会議を標榜し、開催されている会議。2019年、若手アカデミーはGYAと協働で複数のセッションを運営した。次回は2021年。

GYA/YAJ Capacity Building Science Leadership Workshop on Science Advice (2018年11月5日 東京)



Gサイエンス学術会議 (パリ)

若手、及び、若手アカデミーの存在を各国にアピールできました。



筑波会議 2019

若手アカデミー/GYAメンバーと江崎玲於奈先生、John Earnest Walker先生、山中伸弥先生、小林誠先生

各国若手アカデミー会議

安田メンバー

渡辺前副会長

GYA総会

新福副代表が、三度、執行役員に選出

World Science Forum 2019